

平成 26 年度第 2 回奈良市総合計画審議会第 3 部会会議録		
開催日時	平成 27 年 1 月 9 日（金）午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで	
開催場所	奈良市役所北棟 6 階第 21 会議室	
議 題	1 奈良市第 4 次総合計画後期基本計画各論（案）について	
出席者	委 員	佐藤茂雄部会長、伊藤委員、小山委員、下谷委員、藤沢委員【計 5 人出席】
	事務局	総合計画策定委員会委員及び関係課職員、総合政策課職員
開催形態	公開（傍聴人なし）	
担当課	総合政策部総合政策課	
議事の内容		
1 後期基本計画各論原案 事務局より、資料 1 について説明を行った。		
〔質疑・意見の要旨〕		
佐藤部会長	では、1 ページから順番に行きましようか。皆様方のご意見がきちっと反映されているかどうか、あるいは追加でも結構でございます。どうぞご意見がございましたら、お願いいたします。 変更欄の○、×、◎はどのような意味ですか。	
事務局	こちらにつきましては、まず 1 ページ目でございますしたら、左の上の欄に前期計画の現状が書いております。そこから後期計画で大きく変化している、変化が少ない、変化していないという整理で、変化の大きい順に◎、○、△、×を事務局で設定させていただいております。	
佐藤部会長	では、ちょっと皆様のご意見を誘導するために申しますけれども、5 番目の変更点ですが、「多言語化表記ができていないものが見受けられます」となっていますけれども、「できていないもの」という表現はどうなのでしょう。できていないものが圧倒的に多いのではないかと思うのですが、「見受けられる」というのはちょっとあまりにも当事者意識がないような感じがするのですが、いかがでございますか。	
観光経済部長	各案内板等につきましては、順次多言語化ということで、昨年もならまちの方で 11 カ所、案内板をつけました。奈良公園の方は、県がかなり多言語化をやっております。できていないのがあるのは事実でございますので、そういうのは継続的に変えていくという、表現として適切かどうかというのは確かにあると思いますけれども、	

なかなかすぐできない状況もございますので、そのような書き方にしております。

佐藤部会長 それはわかるのですが、これだと多いのか少ないのかわからないですよね。むしろ、少ないぞという感じ。

観光経済部長 多言語化が少ないと。

佐藤部会長 だから、ほとんどできていて、まだできていないのがちらほら見受けられると、このように誤解されますから、圧倒的にできていないのが多いと思うのですよ。ですから、「まだまだだ」とか、表現をもうちょっと、さらにやらなければならないという努力目標につながるような表現にしないと。

観光経済部長 ほとんどの部分を多言語化する必要があります、という言い方ですね。

佐藤部会長 そうそう、そんな表現にしないといけないのではないですか。

観光経済部長 はい、わかりました。

佐藤部会長 そういったようなことで、ご発言いただきたいと思いますが。

小山委員 参考までに、多言語はどの言葉を指して言われているのでしょうか。

観光経済部長 英・中・韓です。

ただ、看板の大きさ等によりまして英語しかできない分もたくさんございます。でも、できるものにつきましては、英・中・韓を基本に考えていきたいとは考えておりますが、やはりなかなか看板ばかり大きいものを立てるわけにもいきません。景観上の話もございまして。ただ、ならまちで結構大きなものも建てておりまして、それは英・中・韓の表記を基本的には考えております。

下谷委員 「観光シーズンには交通渋滞が慢性的に発生しています」というところなのですが、これもすごく課題になると思うのです。いろいろ市のほうも観光プロモーションをしていただいている中で、車で来られて、置く駐車場もないとかいう問題が発生して、もう奈

良へ二度と行かないとかいうようなことになって困ります。

この文章の中で「県、交通事業者等関係者で連携しながら渋滞解消につながる各種施策を実施しています」と書いているのですが、毎年見ている中で、あまり進んでいないような気がするのです。この文章でしたら、「実施しています」と書いている中で、そういう解消につながっていないところが見受けられますので、県と交通事業者がどのようにして連携をとっているのかとか、とっている中で渋滞解消がうまくいっていないとか、もっと努力してどういうふうにしますとか、そういうような文章にさせていただいた方がいいかと思うのです。

それで、もう少し広報で、シーズンに奈良へ来られる場合は、車を利用せずに電車とか公共交通を使って来てくださいという広報も放送会社など使ってやっていく必要があるのではないかなと思うのです。

佐藤部会長 いかがですか。

観光経済部長 ここは現状と課題でございますので、下谷委員がおっしゃるように、これも実施していますけれども、現状はなかなか解消していないというところがございますので、そういう表記をさせていただきまして、かつ計画のところでは具体的な話をしていきたいと考えております。

佐藤部会長 だから、実施しているけれども、まだ不十分だと、ここではっきりしておかないといけませんね。

それから、その下の「外国人観光客の増加もあり」とありますけれども、これは当然にありがたいことですから、何か「増加もあり」というのは迷惑そうな感じがしますので、これはちょっとうまいこと書いてもらわないと。増加があるのだけれども、対応できてないという風にしないと。

藤沢委員 外国人をもう1枠作った方がいいのではないですか。

佐藤部会長 かもしれないですね。

藤沢委員 いろんなところに海外対応が混じっているのです。

佐藤部会長 そうですね。外国人に特別にもう1枠をつくって。

小山委員　これは1ページの具体策が2ページ、3ページですね。3ページには外国人観光客という形でいろいろ出ているので、この1ページは大枠になって、具体になると3ページで見たほうがいいのかと思うのです。

観光経済部長　おっしゃるように、この施策の展開は3ページ以降になります。1ページが現状と課題ということでございます。現状と課題ですから、今おっしゃるように、もう少し外国人への現状と課題を記述するのはもちろん結構なのですが、今後の施策は外国人観光客の誘致促進ということで、一つの項目を挙げさせていただいております。

伊藤委員　ここは現状の認識というところで、例えば上から3つ目、もとは「統一的なプロモーション活動や効果的な情報発信が十分とは言えない状況です」、これを右のように書きかえるわけですね。「観光分野における市場の動向が短期間で変化する状況です」と。例えば、どんな変化をしているのかがわからないですね。これをこう書きかえるのが適切かどうか、かなり内容がぼやけてしまっているところがあります。

それから今、議論が出ましたけれども、一番下から2つ目、新規の1つ前です。「様々なニーズに対応できる」ところに、外国人観光客の増加の話があるのですが、様々なニーズはこれだけでしょうかという話ですね。最近、特に観光地なんかで無料のWi-Fiとか使える、そういったWeb社会への対応みたいなものが多分まだ遅れているのだろうと。

それから、様々なニーズにしても、国内で例えば若い世代とか中高年とか、国内のニーズも変化していると。観光客の対象といえますか、こういったものもやはり多様化しているということで、そういうことも踏まえておいたほうがいいだろうと思いますね。

佐藤部会長　今の伊藤委員のご指摘、まず上から3つ目、これは左の「統一的なプロモーション」、それと要するに動向の変化が激しいというのは、両方とも大切であって、これまでのものを消してこっちに変えるべきものではないですね。2つとも入れておかなければいけないのではないですか。

それから、今おっしゃった様々なニーズ、これまでも対応できていなかったけれど、加えてインバウンドのお客さんが増えて、一層

対応できなくなっているというような文章に変えないといけないのではないですかね。

観光経済部
長

わかりました。

佐藤部会長

1 ページ目、よろしゅうございますか。では、2 ページ目に行かせていただきます。観光力の強化です。これは、私は、2020 年の目標値があまりにも低過ぎると思うのですが。昨年、大阪はインバウンドのお客さんが 320 万でした。前年度は 260 万なのです。ものすごく伸びている。

ピーチ・アビエーションの社長に聞きますと、またマーケティング調査をしてほしいのですが、ピーチのお客さんについては、奈良に行こうとか事前に全部わかっているのですよ。そのデータを持っていますから、これをちょっとヒアリングするとかしないといけないです。その上で出された数字でないといけないのです。

今の大阪のインバウンドのお客さんからしても、あまりにもこれは低過ぎる。USJ を訪れるお客さん、連泊のお客さん、奈良に泊まっているお客さんからしても低過ぎる。もうちょっとマーケティング調査をやらないといけないですね。これだったら低過ぎる数字ですから、また、成績がよかったなということになりがちですね。

観光経済部
長

これは観光庁が出しております 2020 年の予測に比例した形で出させていただいています。

佐藤部会長

あまりにも変化が激しいという、さっきありましたよね。それと一緒になのです。観光庁のデータというのは大分前のデータですから、算出が古いのです。ですから、さっき言いましたように、大阪は 260 万から 320 万。信じられないでしょう。観光庁のデータにはないんですよ。

観光経済部
長

260 から 320 ということは 60 万増えるわけですから、二十何%ですね。

佐藤部会長

すごいでしょ。この変動幅は大きいです。

伊藤委員

3 ページの上の①の観光資源・施設の整備・充実のところ、6 番です。「県内外の観光地との広域連携による新たな観光資源の形成を図ります」と、これはやや修正してあるのですが、前期では「県

内外の観光地との広域連携」と書いてあるのが、後期が「近隣市町村との共同」と何か範囲が狭まってしまっているような気がします。具体的には、山辺の道とか歴史街道とか、非常に狭いエリアで話をしている。これからインバウンドも含めて、大阪とか京都とか兵庫、神戸のようなどころと、もうちょっと広域連携していかないといけないと思うので、このあたりの表現はちょっと検討の必要ありと思います。

観光経済部長 おっしゃるとおりだと思います。わかりました。

佐藤部会長 我が社のことで申し訳ないですけど、昨日、京阪バスでは、京都と奈良を結んで、相互連携を図ると言っていましたから、おっしゃるとおりだと思います。

近隣市町村、斑鳩云々は大切ですけど、これは県と市の協調体制、そっちのほうに意味があるわけですよ。そっちはどこかに出てまいりますか。県と市の観光の一体化。

観光経済部長 はい、それは県と市で今度、包括的な協定を結ぶということになっておりますので。

佐藤部会長 どこかに項目として。

観光経済部長 いえ、それは市全体のこととして包括協定を結びますので、観光のほうで特には書いてございません。市としていろんな分野で、新たに4つほどの項目を挙げまして、県と市の包括協定をやっていくと。近々結ぶというのを聞いておりますけど、それに観光も当然入っております。

佐藤部会長 一昨日、JTBの社長としゃべったのですけれど、奈良県と組んでインフォメーションセンターを今やっています。場所は知りませんが、奈良市内だと思うのですよ。インフォメーションセンター、これに奈良市が関与しないといけないのではないかと。JTB西日本の社長に奈良市に一度説明に行くようにとっておきました。ですから、どこか1項目に県と市の一体化というのがやっぱり必要ですよ。

観光経済部長 現実にそういう動きも出ておまして、近鉄の観光案内所、今おっしゃるように、県と市でちょっとばらばらな部分がありましたけ

れども、県のほうから費用を負担していただいて、一体にしよう。外国人の英語対応をずっとしていこうということがございますので。わかりました、はい。

藤沢委員 基本的なことを聞いていいですか。

佐藤部会長 はい、どうぞ。

藤沢委員 施策の展開方向なので、これは具体的なことではなくていいと。読んでみると、漠としたことが多くて、後でやれたかやれなかったか、どうやって評価するのかと。これはそういうものなのですか。

観光経済部長 はい、そういうもので、この下に実施計画があります。基本構想、基本計画、実施計画、これで総合計画ということでございますので、実施計画で年次計画を立てて、この施策の展開方向の下に具体的な施策がぶら下がってくるという形になります。

藤沢委員 なるほど。そうすると、おもてなしの向上とか書いてあるけれど、具体的なところでそれは一体何かとかは出ていないと。

観光経済部長 はい、そうです。具体的な施策は実施計画のほうに委ねるということになっております。

藤沢委員 漠としたものもあって、何か細かいのもありますね。

観光経済部長 おっしゃるとおりです。いつもそうなのですけれども、ばらばらなところが。

藤沢委員 なるほど。わかりました。ありがとうございます。

ちよっとだけ、一つ外国人向けのところでぜひ追加していただきたいなと思ったのは、多分市長はもう準備されていると思うのですけれども、外貨の関係のことをしっかりと。

観光経済部長 両替の関係ですね。それはJRの奈良駅を出たところに総合観光案内所がございまして、これは前も申し上げましたように、そこにまず観光案内所としてのカテゴリ-3を取りまして、その中に入れていこうかなということは考えています。それ以外のところは、申し訳ないですが、やっぱり民間の方のご協力も必要かなと考えており

ますけれども。

藤沢委員 私は去年、外国人 30 人を奈良に呼んできて、みんな商店街を歩きながら、一切お金を換金できないし、商店街でクレジットカードを使えないし、みんな買い物できないと、ものすごいクレームを受けたのです。なので、そういうのは民間がやらなくてはいけないとしたならば、民間にそれを促進していく何かを考えていただきたいなと。

佐藤部会長 そうですね。私もこの前言いましたが、ユナイテッドの副社長が、おもてなしとは、三つ指ついて「いらっしやいませ」ではないと。ATMの機械があるとかWi-Fiがあるとか、そうでないとアメリカ人は来ないとはっきり言いましたね。大阪なんかATMはないですよ。いち早くこっちに入れるとか、そういうことも考えてもらうことが必要でしょうね。

観光経済部長 是非、それは奈良駅の総合観光案内所で実現していきたいなと、まず考えております。それ以外は、今おっしゃるように、商店街等も担当しておりますので、啓発というかお願いというか。中国向けの銀聯カードは市のほうで補助金を出してやらせていただいたのですけれども、かなり普及させていただきました。

藤沢委員 はい、ありがとうございます。

佐藤部会長 ただ、そこで1カ所だけではやっぱりだめですから、今のところは仕方ないとしても、JRの駅には幾つあるのですか。

観光経済部長 いえ、まだないです。

佐藤部会長 では、それを皮切りに順次、市内に設置していく、そんな表現にしないといけないと思うのですよ。

3 ページは、いかがでございましょう。

伊藤委員 外国人観光客の誘致促進なのですが、これはもともと東アジア、東南アジアということで、いわゆる欧米なんかはターゲットにしないのですかね。最近増えているような気がするのですが。例えば「中心に」とか。

観光経済部長	<p>これにつきましては、市でかけているプロモーションは今まで東アジアだったのですけれども、それを東南アジアで増やすという意味で、何もヨーロッパを軽視しているわけではございません。</p> <p>奈良というところはフランスのお客さんが非常に多いところで、割的に言いますと、日本に来られたフランス人のかなりの方が奈良にお越しいただいています。スペインも結構多いです。そういうことがございますので、その辺も認識しております。ただ、プロモーションをヨーロッパでというのはなかなか難しいところがございまして、費用対効果を考えますと、まず東南アジアかなということを考えております。</p>
伊藤委員	確かに数的には圧倒的ですね。
藤沢委員	でも、河瀬直美さんがこの間、フランスから叙勲を受けられたり、奈良は、フランスからはすごく注目されているので、使える人は使ったほうがいい。
観光経済部長	今年の3月に、総合政策部でフランスのパリにプロモーションに行く予定があります。
藤沢委員	そういう意味では、東南アジア、また欧州の、ある程度のターゲットカントリーをつくるとか、そういうのがあってもいいのかなと思います。
佐藤部会長	どうしたらいいですか、表現は。
伊藤委員	「中心に」にすれば入ってくるでしょう。これだと東アジア、東南アジアからだけですからね。
佐藤部会長	では、欧州はもうやっていると、こういうことですよ。
観光経済部長	いや、やっているわけではないですけれども、なかなか難しいところがあるので。たまたま、今回はフランスへ一歩ということで、またスペインなんかにも姉妹都市もございまして、そのへんは考えていきたいと思っております。
下谷委員	県の観光局の方で、世界の何方所に案内所を設けるということを実際進めておられると思うのです。

観光経済部
長 駐在員ですね。

下谷委員 はい。そういうところにやはり注視していただいて、県との連携というのはそのへんにやっぱりあると思うので、何事も県と市が綿密に連携を取り合って、無駄のない観光施策をやっていくということが一番大事なので。市は市でやって、県は県でやるというのが、一番無駄があります。

観光経済部
長 まさにおっしゃるとおりだと思います。下谷委員がおっしゃる件ですが、今5カ所ほどと言っていましたですね。来年度から駐在員を置いてということで。先ほど会長がおっしゃったように、県と市の連携というのは非常に大事だと思います。

下谷委員 下見も、今年の4月から行われるみたいなので、それに一緒になってね。やっぱり奈良県の中心は奈良市の観光ですから、うまく進めていただいたらいいかと思います。

観光経済部
長 はい、わかりました。

下谷委員 よろしくお願いします。

観光経済部
長 こちらこそ。

小山委員 同じように、奈良市の方は私はこれでいいと思うのですが、県でやられてる経済産業雇用振興会議、ここでも観光がメインで、ここに市町村会の方も入ってやっております。聞いたらおのおのが、斑鳩はあの辺でやります、また明日香は明日香のほうで。それをどこかで連携できるような形を、できたら奈良市がリーダーになっていただいて、そういう会議を持っていただけたら。お互い費用がありますから、分担し合うとか、うまく県を使って乗り合っていたら効果が出るのかなと思っております。

佐藤部会長 ばらばらで、もったいないですよ。3ページはよろしゅうございますか。

では5ページにいきましょう。どうでしょうか。

伊藤委員 1点、「削除」があるのですが、外国青年招致事業ですね。

これは削除するという事は、もうしないということですか。

観光経済部長 国際交流員の事業、C I Rの事業をしておりました。現実を申し上げますと、C I Rでこちらの方に来ていた中国の方が、ちょっと日本で働きたいということで、今実は観光戦略課の方で嘱託職員として働いておられます。また、在日の方なのですけれども、韓国語対応ができる方もおられます。

C I Rとしてはしませんけれども、そういういわゆる言語対応なり、中国の機関との折衝なりはできます。C I Rという制度は使わないということで削除というか、現状としてはないということです。

伊藤委員 では、今おっしゃられたような内容に書きかえたらいい。削除ではなくて。

観光経済部長 わかりました。今はそういう対応をしているということです。

藤沢委員 この国際交流の3番目のところで幾つか、ベトナムのフエ市で何をやったなど書いてありますけれども、ほかに奈良で国際交流をやっている実績のイベントってないのですか。例えば、さっきの河瀬さんの映画祭なんて、海外の人がたくさんいらっやって交流していますけれど、ああいうイベントが幾つかあるのだったら、そういうものも市が支援していますというので、民間がもっと一生懸命やって、市が支援できるようなものがあって、実績があるなら書いておいていただければ、市民の人たちは市の力を借りようと思える。

観光経済部長 文化の方とダブってまいりますけれども、また違う切り口でございますので、わかりました。

藤沢委員 ありがとうございます。

佐藤部会長 次にいってよろしいですか。6ページ、施策ですが。

藤沢委員 目標値が変わらない。

佐藤部会長 この件数ですか。むしろ、これはどんな効果があったかということですよ。

藤沢委員	5年間で5団体しか増えない。桁が違うのですか。
観光経済部長	いえ。
藤沢委員	これは、すごく少ない気がします。例えば、さっきの観光のところで起業家を支援しますということであれば、本当はこういう交流団体も増えていかないといけない気がしております。私は、国際交流基金の審査委員をやっていますけれども、いろいろな形で、外国の人が来るのだったら、お医者さんでサポートする人であったり、観光でサポートする人であったり、コンシェルジュ的サポートをする人であったり、学校も国際化していくのだったら教育のサポートする人、と考えると、5年間で5個しか増えないということは、1年に1個しか増えないと。
観光経済部長	これは現実問題として、藤沢委員さんがおっしゃったようにいろいろな動きがあるのですけれども、あくまで登録ということになっています。だから登録ということは、私どもがもっと働きかけていかなければいけないなど。外国からのお医者さんの集まりに対応したりとか、いろいろなことが。例えば、この間オマーンから学生が来て、それも全部観光で対応しているのですけれどね。そういう動きはあるのですけれど、そういう団体登録というのは難しいのですけれども、ただ登録をこちらが働きかけるということは必要ですので、わかりました。もう少し検討させていただきます。
藤沢委員	さっき佐藤部会長が最初のところでピーチ・アビエーションのデータを使ってとおっしゃったのと同じで、これも、現実的に5個でいいのかなと。何か少しプロセスとセットで説得していただけると、5個でもいいのですけれども。
佐藤部会長	A P T E Cがあるでしょう。僕はあそこの会長をやっていますけれども、あれなんかはシルクロードをやっているでしょう。
観光経済部長	浅沼理事長が来られて、話し合っています。
佐藤部会長	そうですね。だから、あれをやったらいっぱい増えてきますよ。
観光経済部長	はい、わかりました。それはまたシルクロードプロジェクトがございまして、A P T E Cとも連携して、せっかく奈良市に事務所があ

	りますので。
伊藤委員	それに関してもう一つ教えてほしいのですが、この登録団体の定義は、奈良市に団体の事務所があるとか、そういうことで限定しているのですか。
観光経済部長	特に限定はしていません。奈良市で活動していただければいいと思うのですけれども。
伊藤委員	例えば、もっと広い範囲で活動している大阪の団体とかで、奈良市でもやってもらえるのであれば、そういうのを登録してくださいということもできると思う。その他の団体、広域で活動している国際交流団体が奈良市に協力してくれたら、もっともっと国際交流が盛んになるというか、そういう呼びかけをしてもいいのではないかと思います。
観光経済部長	この前も、姉妹都市の慶州市から日本語を勉強している方が来られました。日本でハングルを勉強している方との交流も市の方でセットさせていただいて。そしたら日本でハングルを勉強している人たちが、自分たちも団体を作って、また慶州に行きたいというような話がございます。委員の皆様のお話を理解させていただいたと思いますので、対応させていただきたいと思います。
伊藤委員	大学の中にも学生の国際交流団体みたいなものがあるので、彼らもどんどん呼び込めば、外国からの学生が奈良に旅行に来てもらったり、交流できると思うので、そういうように手を広げていけば、もっとこの数が増えてくると思います。
観光経済部長	部会長がおっしゃるとおり APTEC の横に県が留学生の交流の場を作っておりますので、そこにまた働きかけさせていただきたいと思います。
佐藤部会長	奈良は国際会議場がないでしょう。コンベンションホールがないです。これが一番弱いところですね。あればどんどん増えていくのですけど。
観光経済部長	市役所の土地を県が国際級ホテルと言ってくれていますので、そこへ是非、同時通訳機能とかを備えた国際級のホテルができればいい

など思っているのですけれども。

佐藤部会長 伊達さんのところですか、森トラスト。

観光経済部
長 はい、そうです。

佐藤部会長 では、数値がもっと上がるやつが出てきますね。目標数値。

観光経済部
長 団体数ですね。わかりました。

小山委員 この交流団体の今ある現状 13 というのは、どこかに記載を
いただいているのでしょうか。

観光経済部
長 はい、市のホームページの中で登録していただいている国際交流の
団体を認定というほど大したことはないのですけれども、掲載して
おります。

佐藤部会長 では、7ページに行きます。

伊藤委員 4番、5番は先ほどと同じで。

佐藤部会長 いいですか。

観光経済部
長 はい、わかりました。

佐藤部会長 次は9ページ、農林業。

伊藤委員 よろしいですか。9ページの一番下のところ、課題を削除してしま
っているんですけども、里山の保全とか生き物の生息空間、これは
削除していいのですか。

観光経済部
長 私もパッと今見まして、と申しますのは、この総合計画の基本的な
仕組みから申しますと、現状と課題があるものにつきましては、次
に当然施策がくっついてこないといけませんので、現状でこの里山
の保全とか、生息空間への関心を高めるとか、このへんは縦割りで
大変申しわけないですけれども、農林課の方でこれをしていくこと
はなかなか難しいなということで削除に。ただ、環境という面で見
ましたら、これは非常に奈良市の自然環境というのは一つの売り物

ですから、環境保全という面で言いますと、確かに削除するのが適切かどうかはちょっと検討しなければいけないと。市全体としても考えていかなければいけないということは認識いたします。

伊藤委員 要するに、農林業としてではなく、自然環境の保全のところでこれの対策を考えると。

観光経済部長 はい、その方が適切なところかなとは思いますが。

総合政策部長 ただいまありましたように、項目としてここに挙げるのは確かにふさわしくないのかなという気はします。ただ、環境保全、前期の総合計画の中では環境というのは重点施策の一つに挙げていましたので、そういう意味で環境という視点から抜いてしまうというのも、伊藤先生のご指摘もありましたように、どうかなというものもありますので、その辺ちょっと検討させていただきたいと思います。

佐藤部会長 削除するのはやっぱりちょっとひどいですね。

藤沢委員 去年、田原のほうに東京から何人か仲間を連れて行って、お世話になりました、田植えとかさせていただいて、大変みんな感動して、今度は稲刈りにも来たんですね。そう言う意味では、まさにこれは農林業の6次化ではないけれど、農林業の方がもっとそれを観光資源に変えて行って、農林業としても解決する方法はあると思うので、ここに残していただいた方が、農家の方々がもっと事業を多様化していくということになるかなと。

観光経済部長 藤沢委員のおっしゃるように、田原というところは外の方も受け入れるし、地域活性化に大変力を入れておるところですので、そういうことは当然あります。6次産業ですね、それも大事な話です。ただ、里山の保全、当然農林業とも関係する生き物の生息空間、この辺はちょっとやっぱり自然環境の方が強いのではないかなという気はします。ただ、おっしゃるように、地域の農林業を活性化していくには、今藤沢委員がおっしゃったような取り組みは非常に大事だと思いますので、考えさせていただきます。

伊藤委員 よろしいですか、今のところですけども、課題としての表現がここには座りがよくないという感じがします。今、藤沢委員からもご意見ありましたけれど、農林業を振興していくのに今後どうすれば

いいかということで、農業観光とか林業観光ということがよく言われているので、新しい農林業、これはもともとの総計のほうの施策の展開方向の中にも、新しい農業の展開という部分がありますので、ここは削除するのではなくて、何かここにふさわしい課題を挙げてもらったらいいのではないかと思います。そうすると、後の施策の展開方向とつながりますから。

佐藤部会長 案山子のあるのは何というところでしたか。稲淵でしたか。

伊藤委員 明日香村じゃないですか。

佐藤部会長 明日香村かな。あれは大切ですよ。では、削除ではなくて。

観光経済部長 はい。施策の展開につながるような課題ということで、わかりました。

佐藤部会長 では、10 ページ、施策の目標。

藤沢委員 質問していいですか。下の「人・農地プラン作成地区数」、現状は11で、目標は15なのですけれども、これは作れる地区数というのはトータルでどれぐらいあって、そのうちの11、そのうちの15という形なのですか。

観光経済部長 18です。

藤沢委員 もともと少ないんですね。

観光経済部長 ある程度の集落を単位としておりますので、それぐらいの単位で、18のうち15をさせていただきたいと考えています。そういうことです。

佐藤部会長 いかがでございましょう。

伊藤委員 今、話していた「人・農地プラン作成地区数」というのは、前期基本計画には数字が挙がっていないですよ。

観光経済部長 はい、それは前期にはなかった施策で、新たにできた施策でございますので、新たに追加させていただきました。そして、これがやは

	り今後大事な話になってくるかなということで、挙げさせていただきました。
藤沢委員	もう一つだけ、「認定農業者数」というのが前期の時点で130から140を目標にされて、今の現状が133で、3しか増えていないということだと思いますけれども、なぜこんなに増えないのか、人がいないからですか。
農林課長	これは、いろいろとクリアしなければならない項目がたくさんありまして、その部分で若干農業者の方も苦勞されている部分もあるので、認定農業者になるとこのようなメリットがありますよというような部分が見えてこないというところもあって、農業者の方にも、もっともっと啓発をしながら増やしていけたらなと思っております。
藤沢委員	クリアするハードルが高過ぎるとか、そういうことですか。
農林課長	それは確かにございます。
藤沢委員	それを見直したら、この数字は上げられると。
農林課長	今年度、農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想の中で年間の農業所得をおおむね430万円から350万円に引き下げるなど認定農業者になりやすい制度改正もされています。いずれにいたしましても、農業者の方に対して、さらに啓発をしていかなければいけないと思っております。
藤沢委員	わかりました。
伊藤委員	施策の展開、11ページですが、③の新しい農業の展開のところ、先ほどもちょっと出ましたが、農業観光とか、最近、農家民泊みたいなこともやっているの、あちこちで進んでいます。ああいうのは、ここの中に入るのではないですか。新規の1つに。
観光経済部長	最近、農家民宿の制度をやったところございまして、一つ認定できるということなのですが、農家民宿と民泊は若干制度が違うのですが、ただそういうことをしていきませんと、ますます過疎化が進みますので、要は農業を通して人を集める

というか、農業の魅力を知っていただくということが大事だと思いますので、体験プラン等を開発しまして、考えていきたいと思います。何らかの形で対応させていただきたいと思います。

伊藤委員 要するに、施策の展開方向で新規で何かできるのではないですか。

奈良ブランド推進課長補佐 今、ご意見を聞いて思っておりますのは、施策の展開のところの「④農村地域の活性化」の2番ですね。農業体験などを通じて「食」と「農」に対する理解を深め、関心を高める事業を促進しますというあたりに、農家民宿に関するくぐりを加えまして書かせていただいたらどうか。もちろん今後、部内で検討しますが、そういうような意見でございます。

伊藤委員 ありがとうございます。

藤沢委員 今の「新しい農業の展開」の1の方なのですが、ブランド化を進めて、地域特産品の開発やインターネットを活用した直売所のネットワーク化を広めるのだけれど、最後は地産地消に戻っているのです。ブランド化してネットを使ったら、外で売れるのではないですか。結局、地産地消に戻っていくというのは意味がわからない。

総合政策部長 地産地消はそれで大事なのですが、ちょっと表現の方法ですね。確かにおっしゃるとおり矛盾するような表現になっていますので、表現を変えるか、場合によっては項目を2つに分けるということも。

藤沢委員 地産地消も大事だし、外で売るということも大事なので、2つあったほうが。

総合政策部長 はい。相反することが1つの項目になっているので、修正を検討させていただきます。

藤沢委員 お願いします。

小山委員 質問ですが、2番の「農業経営環境の向上」の4番ですが、
「関係機関」にさらに「等」を入れたというのは、何を含めてという形になったのですか。関係機関というのは、どこなんでしょうか。

農林課長 農業を取り巻く現状、これが非常に高齢化、後継者不足、という状

況の中で、年齢が高くなっていく高齢者の方々がもう農業をやらないというような状況が出てきております。しかし、また逆に新しく農業をやってみたいという方もたくさんおられます。その農地を出して、また農業をやりたいという受け手、その間に立った農地中間管理機構というのが今年度新しくできたという意味で、「等」というような表現をさせていただいております。

小山委員 もともとの関係機関というのはどこですか。

農林課長 もともとは農協という、農地バンクというような制度があったのですけれども、新しくそのような制度ができた中で、「等」という表現をつけ加えさせていただきました。

小山委員 是非やってもらいたいのは、昔からお酒は奈良が発祥と言われるぐらいで、かつ、水もいいというので酒造メーカーがたくさんございます。これは他府県で聞いたのですけれども、奈良もそうだと思うのですけれども、奈良も実際に地場でお酒を作っているといいますが、お米はほとんど兵庫とかそういうところから買っているというのが現状で、前に酒蔵さんと話していたら、奈良でそういうお米があったら全部買い取りますよと。だけれど、それを作ってくれるところがないのですよというのがあります。特に異業種のところと連携していってもらって、うまくコラボしたら、買い取る場所があるのですから。他府県にそういうのがありましたので、奈良も多いと思いますので、参考で。

伊藤委員 関連することですけれども、奈良県のほうで前に農業公社みたいなのがあったのですよね。今、それが農業の担い手サポートセンターという名前に変わって。そのことですか。

農林課長 それが今申しました農地中間管理機構という。

観光経済部長 今、清酒の話が出たのですけれども、奈良市は清酒発祥の地ということをおっしゃって、この前もやはり清酒発祥の地を標榜している伊丹市とイベントをやりまして、どちらも発祥の地だということで痛み分けにしたのですけれども、今小山委員おっしゃるように、お米も当然奈良産というのはブランド化にとっても大事な話です。それも清酒発祥の地と絡めながら進めていきたいと思っております。

佐藤部会長 よろしいですか、11 ページ。

下谷委員 後継者の育成とか、新規の農業者の支援を図りますということを書いているのですけれども、どの業界も後継者について問題はいろいろあるのですけれども、ブランド化を進めるとか、それから地産地消を進めていくという中で、安定供給ができなかったら、そういうことも難しいと思うので、やはり後継者をうまく指導していくとか、夢を持って農業に従事するとか、そのへんのことが一番大事な課題になってくると思います。作る人がいなかったら、ブランド化もなかなか難しいというところで、後継者を育ててほしいと思います。

観光経済部長 おっしゃるとおりだと思います。月ヶ瀬はお茶の栽培がかなり盛んで、農林水産大臣賞を取った方もいらっしゃるのです、その方たちは自分の子供にそういうことをさせていきたいと。息子さんもやっていきたいと。また、イチゴ関係では4Hクラブという若手の農業者の集まりに対する市としての支援もやっております。下谷委員がおっしゃるように、安定供給がないとなかなかブランド化というのは図れませんので。

下谷委員 ブランド化も含めて魅力的なものを作って、県外からそういうところに就職したいとか、やってみたいとかということにもなったらいいのでは。

観光経済部長 これは奈良市だけではないのですが、地域おこし協力隊をかなりたくさん受け入れておまして、できたら地域おこし協力隊で柳生なり田原なり、いろんなどころに入った人は、そこに転入していただきたいなというのが私どもの願いではあるのですね。だから、そういう取り組みも現実には、奈良市だけの取り組みではございませんけれども、させてはいただいているつもりです。

下谷委員 奈良市へ来て環境のいいところで結婚して仕事をしたいとか、そういう方もあるかもわかりませんので。

観光経済部長 わかりました。

佐藤部会長 では、次に行かせていただきます。商工・サービス業です。

藤沢委員 「伝統工芸後継者育成研修修了者数」というのは、1桁の5から

	11 ですけども、この少ない人数のために税金を使って、何か学校へ行くとか。
観光経済部長	はい、育成していくために、やっぱり生活がございますので、研修をしながらその方に若干の給料というか、手当を出しているということなのです。後継者が少なくなる中で、奈良の伝統工芸を守っていくには、このようなやり方がベストかどうかわかりませんが、行政としてできるのはこういうことかなと思っていますけれども。
藤沢委員	大事な取り組みだなと思うのですが、あまりに桁が小さいので少しびっくりしたという。
商工労政課長	後継者育成問題につきましては、年間3名の方を指導しておりますけれども、3名が1年で終わるのではなく、3年間かけてじっくり教育する必要がありますので、数を増大するというわけではなく、しっかりとした本当のプロを育てて、その作品を全国に広めていくという効果もあります。人としては少ないですけども、工芸品を広く広報する意味ではかなり効果があるのではないかなと思っています。現状、月に10万円の費用を研修生に渡して、育てるという形になっております。
下谷委員	こういうのは県外からも募集されているのですか。
商工労政課長	はい。現状は、奈良の一刀彫が今一番多いのですけれども、漆とか陶芸とか、全国にホームページで募集をかけながら、人選しながら、先生方の目にかなった弟子を育てていくという形になっております。
佐藤部会長	これは商工会議所もまた同じようなことをやっているのではないのですか。
商工労政課長	いや、会議所はしていません。割合これは奈良は特化した事業だと思います。
藤沢委員	工芸の分野を広げていくとかという可能性はないのですか。お金がかかってしまいますけれども。

商工労政課 長 藤沢委員	工芸の範囲は、もちろん奈良の伝統工芸に限定しております。 奈良市にね。
商工労政課 長 藤沢委員	そうですね。筆とか団扇とか、そういうものに特化しております。 なるほど、わかりました。ありがとうございます。
佐藤部会長	では、次に施策の展開方向はどうでしょう。 質問ですけれども、大阪の場合、要するにサービス業の生産性が低いものですから、いかに上げるかというのをテーマにしようとしているのです。橋下市長とついこの前話し合っ、近いうちにそれに取り組もうとしているのですよ。そういう動きというのは出てきませんか、商工会議所等から。サービス業というのは本当に生産性が低いのですよ。効率が悪い事業なのです。人手不足がそこに加わっていて、生産性を上げないとやっていけなくなってきましたから。
観光経済部 長	今、商工会議所で特にそういうのはないですね。当然、商工会議所は市の仕事に関係がありますので、そういう提案をさせていただくことはできます。
佐藤部会長	生産性向上をひとつ意識してやっていって。
観光経済部 長	ちょっと大阪のことを勉強させていただいて、そうしませんとなかなか。
佐藤部会長	我々もやっところから取り組むところです。企業が、例えば大阪でいうと、がんこ寿司さんはこれに取り組んでいます。それに取り組んでいるところがあるかもわかりません。事業者でそういうのを見つけ出すとか、ちょっとしてみてください。
藤沢委員	よろしいですか。金融のところなんですけれども、海外の人たちが町家を買いたいなどで来ていますけど、全然外国人は融資を受けられないのです。奈良の地銀は全然融資してくれなくて、今回静岡銀行にお願いして、静岡銀行が外国人に融資できる制度を作ってくれたんです。要するに法律的にはできるということです。外国人が奈良に来て、奈良の良さを感じて、その物件を買って、ホテルにするとか、旅館にするとか、お店にするとか、やりたいと思っても融

	資が受けられなくて。そういう意味では奈良を良くするための事業を興すためには、もう少し融資の制度を普及していただくようなことを。
観光経済部長	法律的に勉強不足で申し訳ないですけども、地銀はそういうのはできないということになっているのですかね。
藤沢委員	いえいえ、静岡銀行は今回やれるようにしました。
観光経済部長	いわゆる金融関連の法律上、外国人に融資できないということは何も無いわけですね。
藤沢委員	ないです。
観光経済部長	審査でちょっとややこしいからということがあるかも知りませんね。
藤沢委員	多分そうだと思います。なので、前回の議事録を読ませていただきましたけれども、1回町家を市で買って、それで再リースするみたいな話もありましたから、そういう市が少し金融の部分、物件の再リースの部分の金融的担保みたいなものの仕組みづくりというのが、何かできないのかとすごく思うところがあります。
観光経済部長	市が例えば保証をするのは若干難しいなとは思っておりますけれども、ただおっしゃるように、金融機関に働きかけることは当然できますし、藤沢委員にいろいろご尽力いただいているのですけれども、奈良は外国人の方には魅力ある場所というのがあると思いますので。 信用金庫はどうなのですかね。同じことですか。
藤沢委員	同じです。だから、やろうと思えばやれると。 ただ、信用金庫は組合員にしか貸せないなので、組合員にならないといけないということがあります。 あともう1点は、商店街のことが全然、書かれていない、ちょっとイベントとか書いてあるけど。 外国人ばかりというわけではなく、東京から来た人たちもそうですけど、商店街を見て、みんながとても買い物する気にならないという話をしている。なぜかと言いますと、例えばものすごい高級な

ものと、ものすごい安いものがごちゃごちゃに置いてあって、30万円のものとか300円のものと一緒に並んでいるので、本当にこの30万円のものを買って価値があるのだろうかというのがわからないとか。あと法隆寺の建てかえのときの立派な木が、すごい価値があるのに、ただ電話台になっていたりするんですね。

なので、さっき会長がおっしゃった生産性とか効率性も含めて、やはり商店街、商店、サービス業の抜本的な見直しのところを一度考えてみたら、もっと消費が高まると。今、みすみす逃しているお客さんがすごい多いと思います。

観光経済部長 例えば外国人の方もネットをよく見られますから、ここに行けばこういうものがあるというようなことも当然していかないと、どこに行ってもいいかわかりませんからね。

藤沢委員 わかりませんし、京都に行くと、奈良より価値が低いものが、もっと高い値段で売っているのですよ。もったいなくて、奈良のほうがよっぽど価値のあるものがあるのに、全然上手に売れていないですよ。もったいないなど。ちょっと文章に落とす話になっていないですけど。

観光経済部長 いえいえ、おっしゃる意味合いは理解しているつもりですので、考えさせていただきます。

佐藤部会長 商店街の活性化。これはもうちょっと藤沢さんのご意見を入れて、充実させたらどうなのですか、商店街のところ。

観光経済部長 わかりました。

佐藤部会長 取り組みとしては、かなり立派な取り組みをされていると思いますけどね。

藤沢委員 あとは、いろいろな工芸品の物品がありますが、さっき農産物のブランド化とありましたけど、奈良の工芸品のブランド化ももう少し。最近はおふきんとか、結構奈良市は頑張っているらしいですが、ああいうものもちゃんと入れたほうがいいと思います、農産物だけではなくて。

観光経済部長 奈良の特産の知名度アップというか、PRですね。

藤沢委員	そうですね。イベントよりも、ブランド化をして、さっきの農業のところに書いてあったのと全く同じで、ネットを使って販売して販路を拡大してというのがあったほうが。農産品だけではなくて。
観光経済部長	おっしゃいましたように、事業者さんの努力でいろいろやっていたいているところがあります。隠れたものがまだあると思いますので、市のほうで発掘してブランド化したらどうですかという話を持っていけるかなと思います。
佐藤部会長	これは奈良が一番遅れているところなのです。 要するに、来た人にお金を全部吐き出してもらおうという魂胆が非常に薄いところ。宿泊も含めて、日帰りとかね。来ていただいたらお金を落としてもらおうという、それはやっぱり観光の原点ですからね。
藤沢委員	そういう意味では、価格設定とかをもうちょっと市で調査されたら。
佐藤部会長	そうそう、マーケティングが不足しています。
藤沢委員	旅館を含めて奈良は安いので、本当にびっくりします。京都などはすごく高い。京都と比較する必要はないけれども、奈良はそれ以上のバリューがあると思うので、結構価格設定を高くできると思います。
観光経済部長	安いところから高いところまでいろんな宿泊施設を用意することが大事かなと思っていますけれど。
藤沢委員	サービス業の方とか、商品を売っている商店街さんとかの値づけをもうちょっと。
観光経済部長	そのへんは、公務員というのは商売したことがないので、なかなか難しいところで、また商工会議所と協力して。
佐藤部会長	商工会議所の仕事ですね。 では、次に行きます。勤労者対策。小山委員、お願いいたします。
小山委員	奈良でやっていただいております勤労者のサービス、福祉共済関係

は、中小企業に対しては大変いいものだと思っております。それをできましたら奈良全体に広めるような、多分奈良市だけでは大変な負担だと思うのです。それを何とか、県と一緒に広めていただくと、奈良には4万軒と言われるような、本当に小さな一人親方からいろいろなところがあります。奈良市がいい例を出していただいておりますので、これはこのままでいいのですけれども、広げていくという形も必要かと思っておりますし、ぜひともお願いしたいと考えております。

シルバー人材センター関係も、今後、高齢者の居場所や、また奈良市は仕事づくりの中心になるところだと考えておりますので人材バンク的に紹介したり派遣で行ったり、そういう機能をもっと広めていただいたらよりいいと思います。

観光経済部 わかりました。

長

藤沢委員 質問ですけど、国の施策で今、女性の活躍ということが言われます。ここは一切入っていないですけれども、奈良はあまりそれは意識されていないのですか。

観光経済部 そんなことはないです。

長

藤沢委員 少し入れておいたほうがいいのでは。

商工労政課 奈良市におきましても、女性の雇用、就労は十分力を入れているところなのですけれども、女性に特化した部分は男女共同参画課という別部署があります。そちらのほうで記載がなければ、こちらの方で追加が必要かなと思います。

藤沢委員 国の施策だと若者と女性という切り口なので、ここに一言入れておくと揃うかなと思います。

商工労政課 わかりました。

長

小山委員 市長は今、いろんなところに行かれたら、女性のことについてはかなり発言をされております。市役所でも四十何%は今女性ですよ。管理職は17%ぐらいですか、それを広げていきますよというような発言もされております。そう発言されているということは、奈良市の企業関係など、皆さんもやってくださいよという発言と思

	いますから、こういうところで表しておいた方がいいかなとは思いますが。
観光経済部長	総合計画書の 48 ページ、男女共同参画社会の実現という施策がございまして、ここに女性の就業の関係は載せさせていただいています。ただ、おっしゃるように、別にダブっても構わないので、わかりました。
佐藤部会長	では、次に行かせてもらいます。18 ページ。小山さん、いかがですか、この数値目標。
小山委員	現状からいったら、こういう形かなと思います。 特にいろんな教室関係では、場所が限定されていますので、広さとか、それを広げるとまたお金が要りますし、現状ではこうかなと思います。これをさらに、市だけではもったいないので、もっと広めていただいたら、奈良県の中小の労働者のためになるなといういい制度なので、もうちょっと長期の視点でお願いをしたいと思います。
佐藤部会長	もっと展開をとということですね。
小山委員	私が言ったのは奈良市の分だけではなく、もっと幅広くですから、それを急に盛り込むというのは難しいと思いますので、意見として聞いていただいて、何かのときに反映されたらと思います。
観光経済部長	県といろいろ話させていただきませんと、市だけではできませんので、考慮させていただきます。
藤沢委員	就労機会の確保のところで、先ほどの観光とかいろんなものを含めて、テンポラリーに外国人対応をする人とか、全ての人に就労の機会を与えられるような施策をつくる話があってもいいかなと思います。高齢の人でも毎日働くわけでもないし、女性もそうなのですけれども、何かそういう全ての人が何らかの形で働くための、環境づくりでしょうか。
佐藤部会長	よろしいですか。では、21 ページの消費生活です。
藤沢委員	奈良は貯蓄率がものすごく高いですけども、金融トラブルはあま

りないのですか。

商工労政課長 消費生活センターへの相談件数につきましては、やはり金融トラブルはかなり多いです。国の施策で補助金等が充実しております、ここ二、三年、特に消費生活センターの相談業務の充実を図っておるのですけれども、それでも現状はそういう高齢者の金融トラブルとか、振り込め詐欺などが多いので、気をつけながら指導していくというのは順次続けていっているところでございます。

藤沢委員 そのへんは学校教育とか、いろんなものとうまく連携できないかなというのがありますが、これだけだと多分全然改善しない。

商工労政課長 現在出前講座というのをやっております、年間 100 カ所程度回っております。その中で、子供会とか、そういう子供たちにも教育していくというメニューを含んでおりますので、ここには表記しておらないのですけれども、その対応はさせていただいているところで

藤沢委員 目標数値のところでは今回、講座受講者数がなくなっています。

商工労政課長 それにつきましては、国の補助がいつまで続くかちょっと不安なところがありまして、かなりそれに頼っている面がありますので、表記していないということが現状です。

藤沢委員 なるほど。でも、本当だったら講座の受講者数を増やしていかないと。国の補助ではなくて、地域金融機関にもっとしっかり講座を開いていただいて、その数を把握していくとか、市からプッシュするような何かお金を使わない施策を考えていただいて、地域金融機関も市民の一人ですから、ぜひお願いしたいと思います。

観光経済部長 話をしていましたら、かなり商工会議所との連携というのが非常に。

佐藤部会長 必要ですよ。

佐藤部会長 消費者に関して、伊藤さんいかがですか。

伊藤委員 こういうところに入るかどうかわかりませんが、最近関心を持って

いるというか気になっているのは、スマホとか携帯電話が子供を中心にそういうトラブルが結構多いので、あれもそういう通信サービスの商品というので、そういう価値観がわかっていない状態でそういうものに慣れてしまって、それがどんどん進んでいくと、いろいろな問題が起こってくると。それは物を買うのではなくて、通信サービスを消費するという、あんなのは教育なのではないかな。

観光経済部長 やっぱりそれは学校で、うちらも当然働きかけをしなければいけませんけれども、学校でまずやるのが一番効果が上がるかなと存じますので、教育委員会にまたそういうお話が出たということをお伝えさせていただきます。

佐藤部会長 では、全体を通していかがでしょうか。

伊藤委員 先ほど部会長のお話がありましたけれども、どんどんサービス経済化しています。奈良はもちろんサービス産業従事者が多くですし、特に観光なんてサービス面が多いですから。生産性が低いという話ですが、これを上げるためにどうしたらいいかというと、付加価値を上げることなのですね。例えば、ブランド化もその一つでしょうし、その付加価値を上げるために市として何か、施策みたいなものはないのかなと思いますね。

佐藤部会長 ブランド化ですね。生産性が低いのは、サービス業の人は何でもかんでもやっているのですよ。労働時間が長くて。これもちょっと工程を、マニュアルをシンプルにするとか、いろいろな要素があるのですけれどね。その余った時間をもうちょっと付加価値を上げる方向に使うとかね。

伊藤委員 特にこの部分は今、日本全体もそうですけど、サービス産業の生産性を上げるために何が必要かということ、やっぱり人的投資ですね。能力を高めることによって、いろんな発想が出てきて価値が高まるというか。何か奈良市版でそういうのがないかなと。

観光経済部長 よろしいですか。前にもちょっとお話をさせてもらったのですが、「まほろば観光大学」ということで、ホテルのマネジャーの方とか、若手でやる気のある方を市で募集させていただいて、経営も含めてサービスのあり方とか、おっしゃったような効率性の話も、外部の講師に来ていただいて、来月にしようということをお考えおま

す。

これは、3日間ぐらいで短期なのですけれども、来年度からもう少し長い期間をとりまして、集中的に講義をしていただくと。講師としては、それなりに著名というか実績を上げた方をお招きしてと考えておりますので、人材育成できていければなと考えています。

佐藤部会長 それは経営者を呼んでいるのですか。

観光経済部長 今考えているのはマネージャークラスです。

佐藤部会長 やっぱり経営者を呼ばないとだめです。事業者を。

下谷委員 旅館、ホテルを例に挙げれば、いい社員、従業員を置けないというのは、やはりオンとオフの差が非常に激しい。いい社員、従業員をずっと雇用していくのは、多くの人数を年間通して雇用していくというのは、なかなかそういうオンの売り上げとオフの売り上げの差が激し過ぎるから雇用しにくいというところがあるのです。

私も実際、従業員を雇っておりますけども、従業員の給料の支払い、ものすごく気を使うところがあるので、オンとオフの差が少なくなれば、もっとたくさんいい従業員を雇えると思うのですけれども、消極的な話になるのですけれども、難しいところがあるのです。

総体的に考えたらそれはなかなか難しいところはあるのですが、とにかくオンとオフの差をなくしていく、それにはどうしたらいいかと。

インバウンドのお客さんはオンとオフはあまり関係なしに来ていただいているところがあって、助かっているのです。だから、インバウンドに力を入れて、オフの売り上げにプラスになるように、非常にありがたい話なので、やはり奈良に来てよかったなあと。奈良の文化が体験できて、豊のところで寝られて、日本の文化はこんなのだなというところを体験していただいて、口コミでもっと増やしていく、そういう一つ一つの積み重ねが大事になってくるのではないかなと思うのです。

京都の旅館も奈良の旅館も一緒なのですけども、一時期、日本の観光者数が減って、修学旅行も多様化して、海外へ行ったりしていた。ところが、最近インバウンドのお客さんが増えてきて、非常に京都の旅館も助かっているところがあるので、時代の変化が助けるということもあるので。別に大阪と京都を真似してする必要は全然ない、文化が全然違うので、そういったところをインバウンドのお

客さまにも学んでいただけるようなことも必要なのかなと考えているのですけれども。

佐藤部会長 大事なことですね。
シーズン別の入込客数のデータをお持ちでしょう。また、教えてください。

下谷委員 それと、行政の方も一生懸命にいただいているのですが、もう一つ東京の方とか全世界に発信できていないところがあるのです。そのへんは非常に商売が下手なところがあって、奈良の人はあまり貪欲なところがないですね。

佐藤部会長 一番最初の話ですね。

下谷委員 富裕層の人が割と多くて、商売している人も貪欲なところがない。その辺を若手経営者がいかにして奈良の魅力を残しながら、他府県と違うところをアピールしながら商売をしていくということ。夢を持って商売していくという環境づくりをやっていく必要があるのではないかなと。これが、奈良の人は割と、僕らもそうなのですが、息子を抑え込むところがあるのです。伸ばさない。そのへんをもうちょっと経営者が勉強して、他府県、それから世界を見て勉強していく必要が十分あると思います。そういう意味で、経営者を呼ばないと。

観光経済部長 2月20、21、22日に計画しておりますので、よろしく願いいたします。

佐藤部会長 モデルになるようなところはないのですか。立派にやっている、生産性を上げている。

観光経済部長 奈良市内で、ですか。

佐藤部会長 ええ。そういうところの経営者を呼んでしゃべってもらおうとか。平宗ってあるでしょう。あれは奈良市内ですか。あそこなんかうまくやっているのではないですか。メーカーでもあり、サービス業でもありますけど。

観光経済部 筆ペンをやっている呉竹という会社もやられているかなと思うの

長	ですけれどね。
佐藤部会長	生産性を上げる努力しているかどうか調べてやってください。
観光経済部長	はい、ありがとうございます。
藤沢委員	<p>生産性を上げるところでもう一つ鍵になるのは、私は会計士さん、税理士さんの存在だと思います。</p> <p>実際に銀行で融資審査と債権放棄の審査をしていると、まず財務がいい加減なのです、経営の方々の。それは結局、経営者の人はサービスのほうに一生懸命になっていて、お金のところがやっぱりちゃんと見られていなくて、税理士先生たちは節税中心にやっていらっしやって、結果的に経営がちょっとしっかりしていないので、いい加減な生産性も維持されている。これは日本中どこもできていないのですけれども、奈良の税理士さんはちょっと違うねというような、何かそういうこともできたらいいなというのは正直思うところではあります。</p> <p>あとは、さっきのオフとオンがばらばらにならないようにということで言うと、神社仏閣をもうちょっとコンベンションなどで使えるように説得をしていただけないかなと。</p>
観光経済部長	藤沢委員さんにいろいろとご協力いただいて、例えば興福寺国宝館の夜間拝観など、取り組みは少しずつですけど、させてはいただいております。薬師寺にも平山先生の絵があつたりとか、いろんなものがありますので。
藤沢委員	少なくとも奈良市のホームページに行くと、奈良ではこのお寺でこんなコンベンションができますというようなものが見られるなど。京都へ行って驚いたのは、京都国立博物館のパンフレットが、博物館でコンベンションしてください、結婚式してくださいという、そういうパンフレットなんですね。
観光経済部長	独立行政法人になったから、多分そうなっているのですよね。
藤沢委員	でも、東京国立博物館は全然だめなのです。京都だからということなので、奈良もどこの神社仏閣もそんなことはまだやっていないので、奈良市のホームページへ行くと、こんなにいろんなところで結婚式もできたり、パーティーもできたり、コンベンションもできた

りというのがあるだけでも、世界に発信できると。

観光経済部長 正直言いますと、なかなか難しいところがあるのです。お寺さんによっては、私どもは観光のために寺をやっているのではないと。本来の祈りのためにやっているのだと。だから、逆にあまりPRしてほしくないとか、そんなところがあるので、だからどう説得していくかですね。例えば写真でも、この写真を使ったらいけないとか、結構制約があるのです。

藤沢委員 博物館も美術館も奈良はいっぱいあるので、そういうものをうまく使えるだけで。私は奈良の価値ってすごい高いと思っていて、世界中の経営者が奈良に来ると、ものすごい学びがあるというのです。私は、本当はエグゼクティブのための学びの場を奈良につくりたいと思っているぐらいなのですが、そのときに奈良という環境をどこで学ぶかという、やはり博物館、美術館、神社仏閣という場を、新しく建物をつくるのではなくて、そこをそういう場に使えるように、一つずつでいいので動いていっていただいて、サイトに上げていただければ、みんなが奈良に何のために来るのかという目的も新たに設定できるだろうし、そうすると観光との関係で、下谷さんのところで宿泊できると。

観光経済部長 個別の話をして申しわけないですけど、春日大社が今年、来年、式年造替ということで、また宮司さんが今代がわりされていて、かなりオープンになって、いろいろなことに取り組んでおられます。また、ご協力をよろしくお願いします。

藤沢委員 よろしくお願いします。

佐藤部会長 京都の冬は困っているのですよ。寒いから。お寺は寒いですよ。

藤沢委員 寒いです。この間、外国人を連れていったら、みんな「足が取れちゃう」とか言って。

佐藤部会長 仏教会が割とがっちり押さえているから大変でしょう。

観光経済部長 そうですね。ただ、奈良の場合、東大寺を始めとしたお寺の集まりである隣山会というのがありますので、そのあたりにうまく話を持っていきましたらうまくいくかなという気はしていますが。ただ、

	代が変わると考え方が変わったりすることもありまして。トータルに奈良の良さということをご理解は当然していただいていますので、取り組みは進めたいと思います。
藤沢委員	あとは、伊藤先生のいらっしゃる大学も。大学もコンベンションには最高の場所です。
観光経済部長	県立大学さんとは、観光でもいろいろな取り組みを観光協会としたりと、いろんなご協力をいただいています。
伊藤委員	観光の教育をしています。
藤沢委員	それだけすごいバリューですよ。
佐藤部会長	外国では美術館でパーティーをいっぱいやっていますよね。あれ、常識です。大阪もやっていますから。
観光経済部長	奈良でも、学園前のほうで大和文華館とか松伯美術館とか中野美術館、結構いい博物館系のものがございますのでね。
佐藤部会長	そういう点からすると、やっぱり文化の切り口はこの中に入っていないですね。
観光経済部長	確かにそのとおりで、総合計画は体系別になっていますので、縦割り行政の最たるものなのですから。文化ということでしたら、来年、東アジア文化都市を奈良で開催ということもございます。
佐藤部会長	フォーラムをやったり、ここから情報発信する仕組みを考えなければいけないです。
観光経済部長	今日も、APTECの浅沼理事長が秋にシルクロードのことをしたいなということで、非常に楽しい話を聞かせていただいて。
伊藤委員	MICE の話だとか、コンテンツツーリズムですね、このあたり奈良はいいコンテンツを持っていますから。
観光経済部長	平城遷都 1300 年祭のときに、お寺は公開をなぜしないのと。人がいないからだ。お寺はそんなに人がいませんからね。だから、そ

	<p>れを例えば、ソムリエの会というのがあるのですが、その方たちが順番に行っていただいて、秘伝の公開は、1300 年祭のときにはしたようですので、そういう取り組みもまたできたらと考えております。</p>
藤沢委員	<p>あとは、旅行会社がひどいです。外国人を奈良に呼んでくるのに JTB さんにご相談したら、奈良の JTB は奈良の人が旅行に行くためにあるので、外から来る観光客用ではないと言われたのです。</p>
下谷委員	<p>今、それは変わってきています。</p>
藤沢委員	<p>変わってきましたか。この間、半年前だったのですけれども。</p>
下谷委員	<p>はい。変わらないとだめなのです。</p>
藤沢委員	<p>そのあたりは、ぜひ旅館のほうからプッシュしていただいて。</p>
下谷委員	<p>私が思うのは、やはり奈良が一つにならないと、旅館もホテルも、土産物屋さんも、病院も一つになって考えていかないと。一つになるところがないから、めいめい一生懸命考えてやっているけれども、まとまりのあるものができていないというようなところがあると。やっぱり一つになったら奈良はすごいと思うのですよ。大阪も京都もひよっとしたら恐れているかもわからない。</p>
観光経済部長	<p>そうですね。商工会議所にちゃんと観光産業推進委員会ってありますよね。</p>
藤沢委員	<p>奈良には観光ビジョンみたいなものがあるのですか。何を核にして観光をしますという。多分ビジョンがある都市は、みんなそこに向かって。</p>
観光経済部長	<p>平成 22 年の奈良市観光交流推進計画というのは個別計画としてはございます。議会でも、これがあるのだったらちゃんとしなさいという質問がございまして、わかりましたとお答えしております。</p>
佐藤部会長	<p>やはりマーケティング、ピーチの井上社長に来てもらいますか。なぜ奈良に皆さんは行くのかわからないでしょう。そういうデータを持っていますから。やっぱりお客さんの「なぜ奈良なのか」という</p>

お声をしっかり認識した上でこういうのをやらないと、ひとり相撲になってしまいます。

藤沢委員 Facebook で「奈良」だけで検索しているだけで、外国人が奈良の何の写真を上げているか全部見られるのですけれども、一番多いのはシカです。多分外国人がいいと思っているのと、私たちがいいと思っているのは全然違うので。おっしゃるとおり、井上さんなどに来ていただくと、いろいろ、何に価値があるかわかるかもしれない。

佐藤部会長 一度呼びましょうよ。お願いします。それはためになります。

藤沢委員 あとは、商工業があまりに少ないのが気になります。もっとここに書くことができるような気がするのですけれど。

佐藤部会長 観光中心になっていますからね。

藤沢委員 観光も商工業とつながると思うのですけれども。

佐藤部会長 まだ、そこまでたどり着いていないのですね。だから、これの前文、能書き、そこへきちんと書かないといけないですね。

伊藤委員 商店街みたいに、1坪店舗とかキューブみたいな、大分展開していますよね。ああいう若い人たちが起業していく、そういったところをもっとつくって、クリエイティブな人たちを集めていくという。

観光経済部長 その取り組みは今、「きらっ都・奈良」というのでかなりやっているつもりなのですけれども。

伊藤委員 それは入ってるんですか、ここの中に。

観光経済部長 一応記載はしていると。わかりにくいようでしたら、もう少しわかるように。

伊藤委員 そこをもっとアピールして。

藤沢委員 そういうことが明確になると、労働環境もどうつくるべきかとか、どういう人材を育成していくべきかとかにつながっていくと思うので。奈良で人を探そうと思ったら、奈良で一体どういう人材

がいるのかも全然わからなくて。多分おっしゃるように全体的、体系的になっていなくて、一つ一つが分断されているので、つながらないのがもったいないなど、思いました。

佐藤部会長 全体の能書きをしっかりとしましょう。次につなげないといけないですから。
今日はこれでよろしゅうございますか。では、終わりたいと思います。

資 料

【資料1】後期基本計画各論原案（施策別） 第3部会